

7 展開例

学習活動	時間	○主な発問 (・予想される児童の反応)	支援及び指導上の留意点
1 メールのやりとりの疑似体験を想起する。 ※	5分	○メールのやりとりをしているときは、どんな気持ちでしたか。 ・楽しかった。 ・すぐに返信が来てうれしかった。 ・返信が来なくてさびしかった。 ・自分の気持ちが上手く伝わらなかった。	○疑似体験によるメールのやりとりの経験を共有させることで、資料への関心を高められるようにする。 ポイント①
2 資料を読み、主人公「わたし」の心の動きを考える。	30分	○メールのやりとりをしているときの「わたし」はどんな気持ちだったでしょう。 ・仲間とつながっているな。 ・より親しくなった気がするな。 ・早く返信しなくてはいけないな。 ○サチに冷たい態度をとり続けたのはどうしてでしょう。 ・サチが返信をよこさなかったから。 ・無視されたような気持ちになったから。 ◎「わたし」は、サチを見ながらどんなことを考えたのでしょうか。 ・無視して悪かったな。 ・もう少しサチのことを考えてあげればよかったな。 ・これからは、サチの都合も考えよう。 ・メールの返信がなくても、サチのことを信用するよ。 ○「わたし」はどうして直接言葉で伝えようと思ったのだろう。 ・サチが喜ぶと思ったから。 ・自分の気持ちがきちんと伝わると思ったから。	○「わたし」の気持ちを問いかけ、友達同士一層親密になった、という気持ちになり、メールにのめり込んでいる「わたし」に気付けるようにする。 ポイント② ○早く返信しようとしていた「わたし」とは反対に、返信をしないサチを許せないと思う「わたし」の気持ちの弱さに気付けるようにする。 ポイント③ ◎中心発問では、ユリの言葉を押さえてから、「わたし」が考えたことを表現カードに記述するよう促す。その際、少人数で話し合う場を設けるなど、話し合いの場を工夫し、多様な感じ方や考え方を交流できるようにする。 ポイント④ ○「わたし」の行動を通して、大切なことは、相手に直接言葉で伝えることが大切であるということに気付けるようにする。
3 これまでの自分を振り返る。		○友達との関係が以前より仲よくなったと感じたことがありますか。 ・学校行事で、友達同士協力し合ったことで、前よりも仲がよくなった。 ・喧嘩をしたとき、自分の気持ちをきちんと伝えて仲直りができ、前よりも仲良しになった気がした。	○今までの自分がどうであったかを振り返ることで、自分とのかのかかわりで「友情の深まり」をとらえられるようにする。 ポイント⑤
4 本時を振り返り、学習感想を書く。	10分	○今日の学習で大切だと思ったことを書きましょう。 ・友達同士信じ合えるっていいことなのだ。 ・友達とルールを決めてメールのやりとりをすることが大切なのだ。	○学習して大切だと思ったことを表現カードに記述する場を設けることで、道徳的価値の自覚化を図れるようにする。

※事前にパソコンソフトを利用したメールの疑似体験をする活動を行い、相手のメールから受ける影響や自分が発信するメールが相手に及ぼす影響について考える機会をもつ。

8 評価例

学習感想を書く場面で、「友達同士で信じ合えることはいいこと。友達とルールを決めてメールのやりとりをすることが大切。」などの言葉を含んだ文章を書いているか。